



広がる国際交流の輪

名取と手をつなぐ仲間たち



お互いに自己紹介することで和やかな雰囲気。

MIA日本語ボランティア養成講座名取編
MIA(宮城県国際交流協会)が主催する「日本語ボランティア養成講座」が、十月四日から二十五日までの毎週水曜日(全四回)名取市で行われました。宮城県に住む外国人登録者数は一万六千人を超え、県内の各地域では外国人出身の人のために、ボランティアによる日本語教室が開かれています。今回の講座は、地域に暮らす外国人の日本語学習をサポートする「日本語ボランティア」として活動を開始するための、基礎的な知識や心構えを学ぶことを目的に開催されました。第一回目の十月四日(水)は、緊張をほぐすためのアイスブレイキングとして、皆さんに自己紹介をすることから始まり、NPO法人ICASAの鈴木英子さんによる講義「日本語再発見」外国語としての日本語」では、実際に鈴木さんが日本語を教える中でのエピソードを交えて、普段、気付くことのない日本語の特徴・表現などを振り返りました。



「先生、顔がしろいですね」...? 「しろい」と「ひろい」たった1文字でも大違いです。

名取市国際交流事業協力者研修会
名取市では、通訳やホストファミリーとしてボランティアを登録する「国際交流事業協力者登録制度」を設けています。今回、初めての試みとして、登録者を対象に十一月二十五日から十二月九日までの毎週土曜日(全三回)「日本文化を英語で紹介する際のコツ」と題した研修会を開催しました。第二回目の十二月二日には重要文化財洞口水家住宅(大曲)を見学し、講師の佐藤悦子さん(通訳案内士・日本観光通訳協会正会員・仙台YMCA講師)から古民家をガイドする際のコツや英単語について話を伺うとともに、洞口水家の十九代目でいらつしやる洞口とも子さんからも、由緒あるこの住宅に関する説明をじっくりと伺いました。



住宅を見学しながら、佐藤先生に古民家を説明するときに必要な英単語や説明方法を教えていただきました。



いろいろを囲んで洞口さんのお話を伺う。昔の生活習慣には日本人の自分たちも知らないことが沢山あり、受講者は次々と質問をしていました。

ニュース

国際交流に関する研修会が開催されました



ドイツから名取へ
フェリクス・フェッセンバハ・ベルーフスカレッジ(FFB)訪問団が来市

宮城工業高等専門学校と学术交流協定を締結しているドイツ・FFB訪問団の学生10人と教員2人が、10月17日(火)に市長を表敬訪問しました。市長との歓談ではドイツと日本の古くからの技術的なつながりや、働きながら学校で学ぶことのできるドイツの教育制度「デュアルシステム」についてなどが話題に。訪問団一行は10月16日(月)~23日(月)の日程で宮城高専を訪問し、宮城高専での授業・高専祭への参加、市内企業での工場見学などを行いました。

「みやぎ国際協力のつどいin白石」

12月3日(日)「いま、こころの輪を大きく!」をテーマに開催されたこのつどいに、名取市中学生海外派遣事業を主催する名取市国際交流実行委員会が参加。派遣事業の写真などを展示し、名取市の国際交流事業を紹介しました。展示コーナーには仙南の各市町や、県内の国際協力・交流団体なども多数出展し、参加者同士の輪も広がりました。

つどいでは展示のほかにも世界のダンスや音楽などのステージ、民俗衣装の試着コーナー、ワークショップなどの催しが行われ、来場した人たちは様々な角度から国際理解を深めることができたようです。



ステージ(フィリピンの踊り)の様子。

じょうほう 掲示板

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。

このニュースレターでは海外での交流体験だけでなく、市内で国際交流や多文化共生に関わっている方の活動や、名取にお住まいの外国人の方を紹介するなど、私たちの身近な話題も取り上げていきたいと考えています。

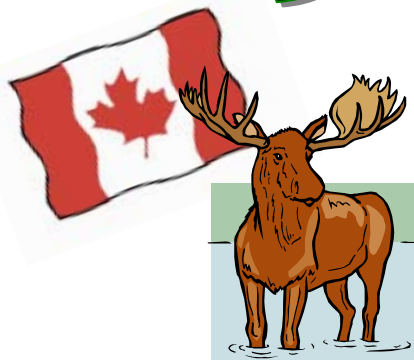
ぜひ皆様の身近な方たちの情報をお寄せください。名取市の国際交流に関するご要望もお待ちしております。

【情報はこちらへ】〒981 1292(住所記入不要)
名取市総務部総務課広報聴係
電話 384-2111 内線 317 FAX384-9030
Eメール: soumu@city.natori.miyagi.jp



平成18年度名取市中学生海外派遣事業 事前研修 オリエンテーション宿泊の様子。
12月16日(土)・17日(日)の2日間の日程で、派遣団員の宿泊研修が行われました。上の写真は「なぜあなたはカナダに行きたいのですか?」「カナダのホストファミリーはなぜ日本人を受け入れてくれるのでしょうか?」などの質問に対する答えを書き出して分類してみるワークショップ。団員たちは、こういった質問をあらためて考えたり仲間の意見を聞いたりすることによって、派遣事業に参加する意欲や目的を再確認したようでした。

夢と希望を胸にカナダへ



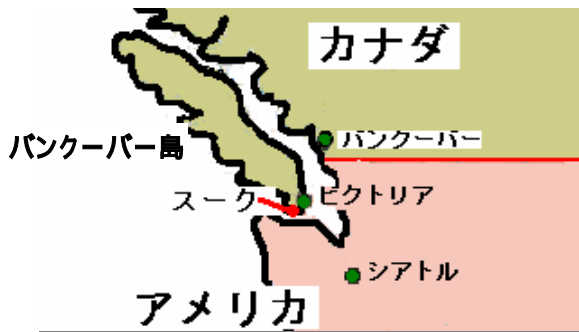
平成18年度名取市中学生海外派遣事業の派遣団員が決まり、来春の派遣に向けて始動しました。

市内の中学2年生22人で構成される派遣団員たちは12月16日(土)から10回の事前研修で派遣への心構えや英会話などを学び、19年3月下旬にカナダへと旅立つ予定です。

今回は交流先のジャーニー・ミドルスクールと、学校の所在地、スーク市について紹介します。

スーク市 (the District of Sooke) はカナダ西部、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島にある海沿いのまちです。島の南端に位置する州都ビクトリアからは、車で西に約40分のところにあります。

スーク市の人口は約1万人で、昔は林業と漁業のまちでしたが、最近では、豊かな自然と温暖な気候を生かした観光業が主な産業となっています。



スーク市はスーク・ハーバーとスーク・ベイソンという大きな入り江に面しており、中心部から歩いて10分程度で左の写真のような、美しい景色に出会うことができます(写真はスーク・ハーバー)。名取近辺の海岸とは違い、海のそばはすぐに森で、スークのキャッチフレーズ“Where the Rainforest Meets the Sea. (雨林が海に出会う場所)”にぴったりの景色が続いています。

そのような素晴らしい環境の中にあるジャーニー・ミドルスクールは、広い敷地と校舎を持つ、生徒数約530人の学校です。平成16年度の派遣事業で訪問した際には、カナダ・日本両国の国旗を掲げて迎えてくれました。

16年度は残念ながら学校が春休みで、授業を体験することはできませんでしたが、来春の派遣事業では学校での生活も体験できる予定です。

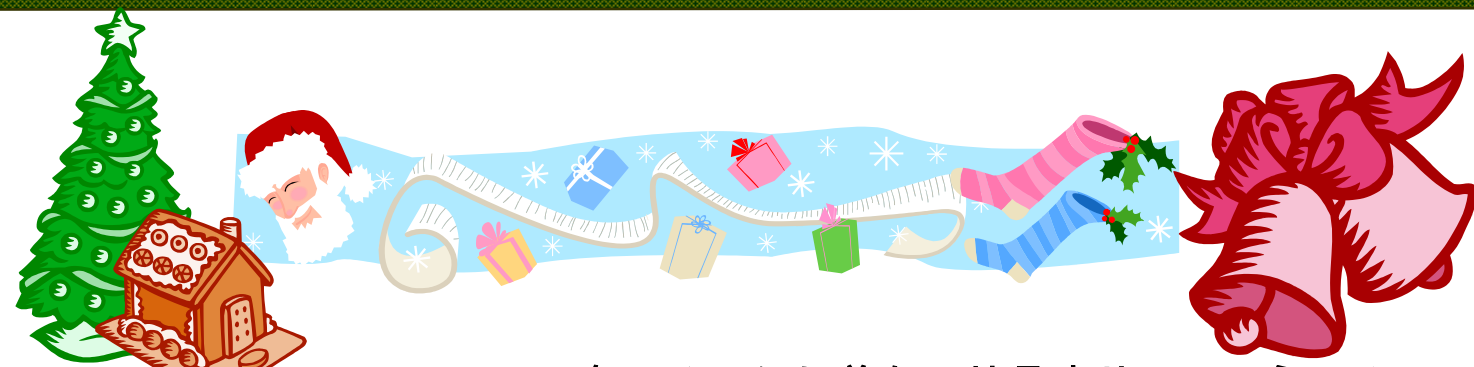
今年度の派遣団員はどのような経験をしてくるのでしょうか。彼らのホームステイ体験記は、帰国後に広報などや国際交流ニュースレターでお知らせする予定です。

どうぞお楽しみに！



ジャーニー・ミドルスクールの玄関ホールに掲げられていた校訓などが書かれた垂れ幕。ドラゴンはジャーニー校のマスコットキャラクターのようです。

平成16年度の派遣事業のひとつ。名取の中学生がカタコトの英語で「花いちもんめ」を説明し、一緒に盛り上がりました。



もうすぐクリスマス… 海外ではどう過ごすのかな？

もうすぐクリスマス。本来はイエスキリストの誕生を祝うキリスト教の祭日ですが、キリスト教徒でなくとも、今や日本の年中行事として定着している日ではないでしょうか。

街にはクリスマスソングが流れ、色々なデザインのクリスマスケーキが店頭並び、最近ではクリスマスツリーを室内に飾るだけではなく、屋外にイルミネーションを飾る家も増えてきました。

では、クリスマスの本場(?)と思われるヨーロッパの人たちはどのようなクリスマスをお過ごししているのでしょうか。現在、ゆりが丘にホームステイ中のヨハネスさん(スイス出身)に、名取に暮らしている感想とともにお話を伺いました。



インタビューに答えてくれたヨハネス・ギュッティンガーさん(スイス出身)。現在ゆりが丘でホームステイ中です。

自己紹介をお願いします。

名前は Johannes Guttinger (ヨハネス・ギュッティンガー) です。スイスから来ました。生まれは、ヘリスアウという町です。今は、国立チューリッヒ工科大学の四年生で、チューリッヒに住んでいます。

名取市でホームステイをすることになったきっかけは？

名取に来たのは、大学の紹介で、高館にある株式会社リコーの研究所で精密電子工学の研修をするためです。日本での勉強を選んだのは、新しい文化や考え、日本語や日本食に興味があったのと、レベルの高い技術を学ぶためです。

名取市に暮らしてからの感想をお願いします。

名取市でのホームステイは、とても快適です。家族や近所の方々はとても親切でフレンドリーですし、ボランティアの先生にゆりが丘公民館で日本語を習うこともできてとてもラッキーです。

日本の生活で驚いたことは？

日本人はちゃんと列をつくらせて並ぶ。ゆりが丘にたくさんのお土産バスが来ること。(帰国して人を乗せないのだから)

いろんな音楽を鳴らす車が来ること。(ごみ収集車、灯油配達車...)

水洗トイレの上から手を洗う水が出るのは、とても便利なシステムだ。(スイスでは高級な家にしかついていない。)

日本人は、よくルールを守る。地下鉄でこども料金のチケットを買って通るとき、誰もチェックしていないように見えるのに、みんなごまかさないので不思議。スイスなら「ごまかしたら一万円の罰金を取ります」と大きく書いてあります。

スイスではクリスマスをどのように過ごしますか？

スイスでは、クリスマスチャリティで家族が集まってお祈りしたり、クリスマスの歌を歌ったりします。小さいときは、森の中に行つてクリスマスツリーを決めて飾りつけ、星明かりの中で歌を歌ってキリストの誕生を祝いました。スイスでクリスマスに必ず食べる料理や食べ物は何ですか？

スイスではクリスマスに必ず食べる食事は決まっています。サーモンの切り身のグリルや、上等の牛肉や豚肉の薄切りのフオンデユにいろんなソースをつけて食べます。フオンデユシノワ」といって、甘酢中華ソースをかけて食べるのもおいしいです。



お母さんお手製のクリスマスツッキー。おいしそう！